

和白干潟を守る会 2009年度活動報告

2010.2.27 和白干潟を守る会事務局

1. 和白干潟での自然観察会をお世話し、多くの市民、特に子どもたちに自然の大切さを伝えることを通して、自然保護の機運を高める。

1. 和白干潟自然観察会

2009年4月、観察会グループミーティングを行い、5月に観察会の案内状を保育園、小中学校、高校、公民館等へ送付した。観察会の依頼を受けると、事前に下見・打合せを行い、観察会に来る学校等でパンフレットやビデオを使った事前学習をしてもらった後、観察会を実施した。

2009年度中(1月～12月)の和白干潟自然観察会は、年間10回で、延べ458名の見学者のお世話をした。学校関係からの依頼では、保育園3回(ちどり保育園、香椎保育所、玄海風の子保育園)108名、小学校1回(和白小学校)128名、中学校2回(筑陽学園中学、多々良中学)71名、高校2回(柏陵高校、福岡魁誠高校)96名、合計8回403名あった。その他に、「…らしく会」、「福岡県青少年科学館」などの団体への和白干潟の観察会が2回、延べ55名あった。また守る会主催では、「にほんの里100選」選定記念として「ぐるっと歩こう和白干潟」を5月に、ラムサール企画の観察会「ハマボウを見る会」を7月に、第13期ガイド講習会を8月に開催し、121名の参加があった。また、観察会でより干潟の自然に興味を持ってもらおうと干潟ピンゴを作成した。今後観察会で活用する。昨年度の学校関係からの依頼が年間11回、延べ563名の参加であったことを考えると減少はあるものの、観察会への参加校はほぼ固定化されている。もう一つの問題として、ガイドの固定化と高齢化の問題があり、多くの参加者があった場合のガイドの確保が大変である。

2. 第13期 和白干潟の自然観察ガイド講習会

和白干潟の自然の特性を良く理解して観察会の案内が出来るように、8月に第13期「和白干潟の自然観察ガイド講習会」を開催し、17名が参加した。

・8/2 講師:九州大学名誉教授 菊地 泰二氏 テーマ「干潟にはどんな生きものがいるの？」

ガイド講習会への参加者が自然観察ガイドとして長年従事した人中心に固定化しており、ガイドスキルは向上しつつあるが、新しいガイドが増加しない点など、ガイド講習会のあり方を再検討する必要がある。

3. 第21回和白干潟まつり

11/29(日)実施。「和白干潟まつり」は多くの人たちに来てもらい、干潟の素晴らしさと危機にある現状を知り、自然環境を守ることの大切さを認識してもらう目的で毎年企画している。生協の協力を得て今回で21回目を迎えることが出来、約400名の参加があった。あやぶまれた天気も終了時刻まで持ちこたえて楽しい一日となった。ステージ前には長椅子を5つ並べ、子供さんからお年寄りまでステージに見入り、又食事もゆったりと楽しむことが出来た。写真の展示は見やすい展示の工夫をしたいと意見が出た。反省会でまつりの在り方にも一工夫をという意見も出た。現状で続ける良さも感じる。最後に参加者一同名で「ラムサール宣言」を出して環境大臣や福岡市長に送付した。次年度に向け出店者や来場者にアンケートを取ることや、和白干潟を守る会活動にかかわりのあった団体・企業との連携をとって盛り上げる提案もあった。

4. 和白干潟クリーン作戦と自然観察(毎月第4土曜日)

毎月第4土曜日午後3時から5時まで、和白4丁目の福岡市道前より唐原川河口までの範囲をその時の状況に合わせて清掃し、自然観察、水質調査や今年からは、砂泥調査も実施した。年間12回、延べ304名が参加し、1,037袋のゴミ(アオサ含む)を回収した。

定例のクリーン作戦の他に、ラブアースクリーンアップ参加やハマボウ見る会、干潟まつりや臨時の清掃などに延べ128名が参加し、140袋回収した。個人でも延べ30名、64袋回収した。粗大ゴミはタイヤ、布団、流木、ソファ、発砲スチロール、浮きなど様々なものが有った。

全体では延べ参加者は462名、ゴミは1,295袋だった。

「福岡市市民局コミュニティ推進部」が始めたボランティアインターンシップ制度でクリーン作戦に申し込みがあり、9月のクリーン作戦より事前説明会を開始した。10月、11月も事前説明会を持ち延べ17名が参加した。アオサ回収の道具としてそりを購入しアオサ回収に大いに役立った。

- ・4月25日(土)クリーン作戦は[干潟を守る日]と[春のビーチクリーンアップ]に参加。
- ・5月31日(日)九州各県70か所で行われる[ラブアースクリーンアップ]に参加。
- ・7月18日(土)ハマボウを見る会は和白干潟保全のつどいと合同で行い21名の参加ゴミ10袋
- ・9月26日(土)クリーン作戦は[国際ビーチクリーンアップ]に参加してゴミデータ調査実施。

漂着ゴミは大雨や北西の風に影響しているためか昨年よりやや少なかった。アオサも2008年より2009年は発生時期が遅いようで量も少なかった。「つどい」イベントで試験的に8月～9月に4回アオサ摘みが行われ、少しは成果があったのかもしれない。アオサのピークは10月の下旬～11月だった。

クリーン作戦では最初にクリーン作戦の範囲や要点などの説明を地図で説明して実行に移る。8月頃より企業からの参加が多くなり若人が目立つ様になった。学生や一般の個人での参加も増えてきた。クリーン作戦後の交流会では参加者の感想を聞いたり、自然観察で野鳥の観察などを行っている。クリーン作戦ではのぼりを毎回立てて目印にしている。

5. ラムサール条約登録をめざして

(1) 和白干潟まつりラムサール宣言

11/29「第21回和白干潟まつり」で「第21回和白干潟まつりラムサール宣言」を出した。

1. 私たちはこれからも大切な和白干潟の保全活動と和白干潟の環境保全の啓発活動を続けていきます。
2. 福岡市に、博多湾全体のラムサール登録に先立ち、まず条件の整っている和白干潟のラムサール条約登録を国に申請することを求めます。
3. 環境省に、和白干潟のラムサール条約登録に早急に取り組むことを求めます。

上記宣言は環境大臣と環境省九州事務所と福岡市長に送付した。

(2) ハマボウを見る会(7/18)を実施

ハマボウを見る会の観察会案内チラシの裏面にラムサール条約を要約した内容を印刷し、和白や香住ヶ丘などに配布し、地域住民への理解を呼び掛けた。

2. 和白干潟の大切さとその変わりつつある姿を、広く社会に訴えるため、和白干潟およびその周辺の生物の調査に力を入れる。

6. 調査

(1) 水質調査(毎月1回実施)

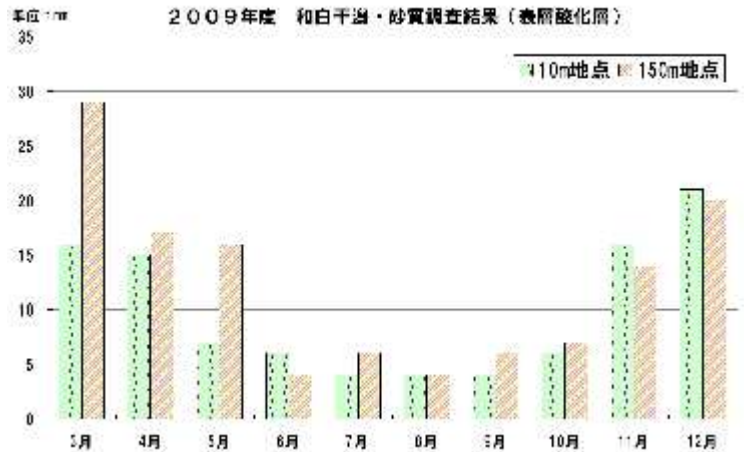
リン酸イオン値(PO₄)が0.06を超えると富栄養化状態を表す。2009年度は、11月が0.06をオーバーしたがその他の月は0.02～0.05の間であり、これは例年より良い状態である。

亜硝酸値(NO₂)は海水の汚染度を表す。和白干潟海水の2009年度の亜硝酸値は、0.02～0.1の間であり、「やや汚染がある」状態であるが、これは例年並みである。

化学的酸素消費量(COD)は毎年夏場には悪化する傾向にある。2009年度も5月、7月には5を上回ったが、例年このような状態である。その他、透視度も測定している。

(2) 砂質調査

2009年3月から始めたもので、和白山・海の広場前10m地点と150m沖合地点の表層酸化層の厚さと還元層の黒色度を測るものである。表層酸化層の厚さが厚いほど干潟が健康な状態にあることを示す。右のグラフは、今年度の表層酸化層測定結果で夏場には数mmまで下がり、秋から冬にかけて厚くなっている。



(3) ゴミ内容調査

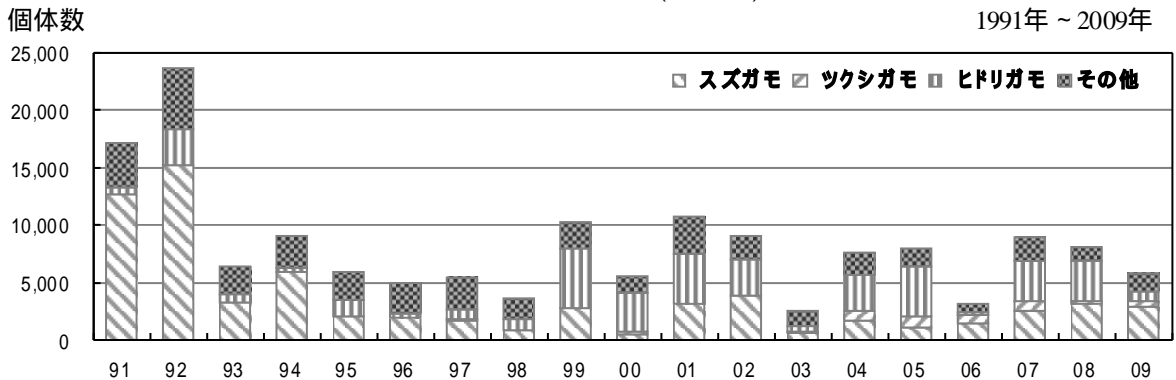
9月の国際ビーチクリーンアップにて、干潟に漂着したゴミを回収して内容調査を実施した結果、40種類のゴミが回収された。特に多かったのは、プラスチックシートや袋の破片、食品の包装・容器、袋類・プラスチックなどであった。

(4) 鳥類調査では以下の調査に協力した。

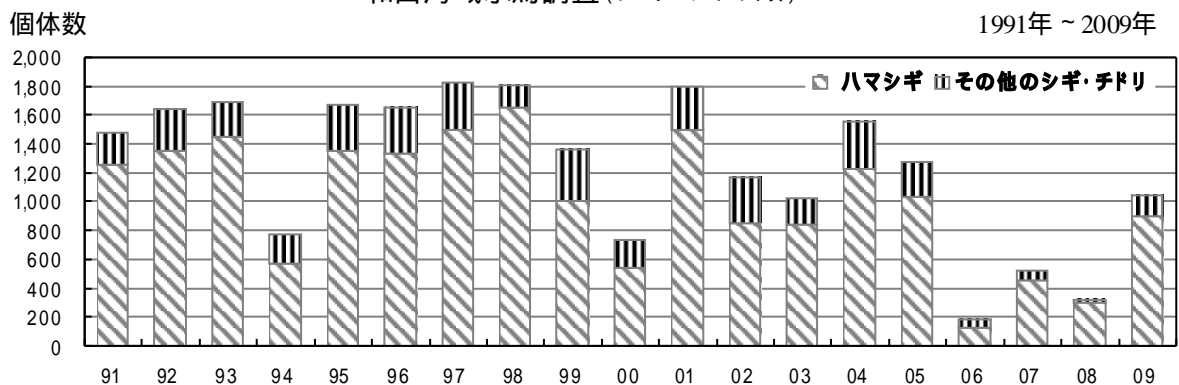
1月 和白山海域水鳥調査(日本野鳥の会福岡支部・IWRB 国際水禽湿地調査局)

和白山海域の水鳥の越冬数(和白山海域水鳥調査)は、カモ類は1991年の約17,000羽と比べて3分の1の5,842羽に減少、シギ・チドリ類は1990年代の約1,600羽から5分の1の約320羽に激減していたが、2009年1月には1,100羽に増えた。

和白山海域水鳥調査(カモ類)



和白山海域水鳥調査(シギ・チドリ類)



環境省モニタリングサイト 1000 シギ・チドリ調査 (環境省・NPO 法人バードリサーチ)

冬期: 1 ~ 2月、12月 今津と博多湾東部各3回実施

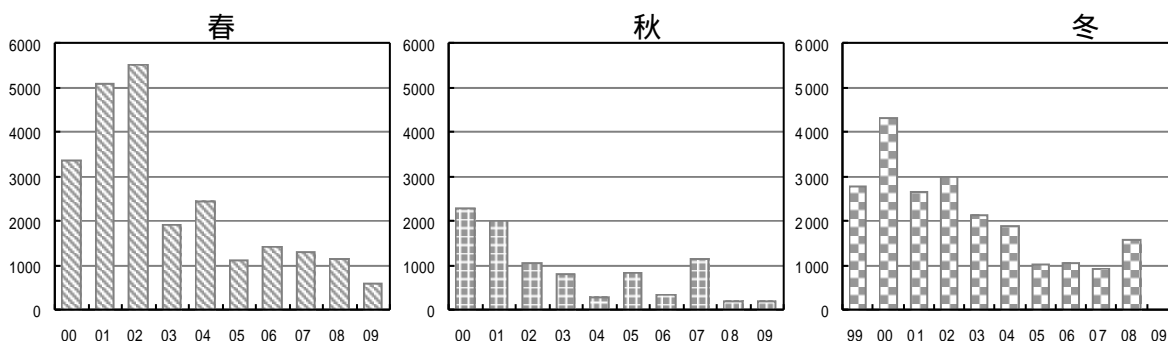
春期: 4月 ~ 5月今津と博多湾東部 (3回実施)

秋期: 8月 ~ 9月今津と博多湾東部(3回実施)

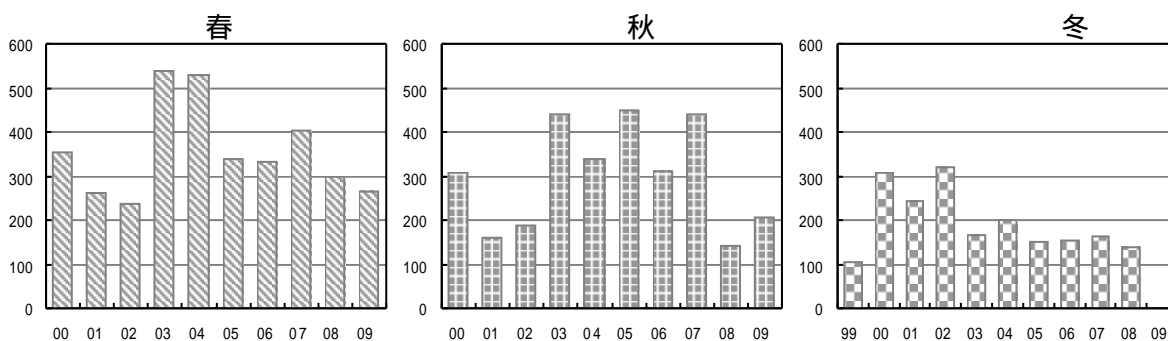
博多湾東部海域のシギ・チドリ類最大数合計は、冬期は2000年頃の約3,000羽から1,554羽に減少し、春期は2000年頃の約5,000羽から573羽に減少。秋期は2000年頃の約1,200羽から175羽に減少した。希少種では、冬期にクロツラヘラサギは最大60羽、ツクシガモ711羽、ズグロカモメ5羽をカウントした。

今津のシギ・チドリ類最大数合計は、冬期は2000年頃の約300羽から140羽に減少し、春期は2003年頃の約500羽から265羽に減少。秋期は2000年頃の約400羽から205羽に減少した。希少種では、冬期にクロツラヘラサギは最大37羽、ツクシガモ47羽、ズグロカモメ23羽をカウントした。

シギ・チドリ類最大個体数の合計(博多湾東部) 1991年~2009年



シギ・チドリ類最大個体数の合計(今津) 1991年~2009年



この17年ほどで博多湾東部の鳥類は大きく減少した。今津はやや減少している。2009年の鳥類調査参加者は、毎回7名から14名、延べ95名が参加した。また一斉調査以外にも個人で調査を行った。

ミヤコドリ1羽和白干潟に飛来観察 9/30 ・ミヤコドリ2羽飛来観察 10/4・ミヤコドリ4羽飛来観察 10/5・ミヤコドリ9羽飛来観察 10/10(1994年の人工島工事着工以降最も多い飛来数)

3. 和白干潟保全のために、和白干潟のラムサール条約登録をめざす。

また悪化しつつある和白干潟の環境を保全するため、博多湾人工島事業の凍結・縮小を含めた和白干潟保全策を市民や関係機関に訴える。その為の広報にも力を入れる。

7. 行政などへの働きかけと表彰

(1) 和白干潟保全条例制定のために

和白干潟保全条例案の項目を、通信「干潟のつぶやき」を通して記事に取り上げ、2009年1月発行の89号より掲載し広く周知するようにした。(これまでの掲載項目:犬の放飼いをしないように・アサリの大量採集は止めるように・ゴミを捨てないように・アオサを回収してほしい・干潟でのマナー)

(2) エコパークゾーン等水域利用検討委員会(事務局:港湾局管理課 山本代表が委員として参加)

・2009年度守る会の活動予定表を提出(3/2)

・エコパークゾーン水域利用連絡会議(3/27)(12/9)(委員:山本、傍聴:山之内、田辺)

・21年度事業報告書を港湾局管理課に送付(11/30)

・海上パトロール参加(8/29)(山之内)12名参加(委員と海上保安官)(7/26は雨天中止)

(3) 和白干潟保全のつどいへの参加

【構成団体:福岡市港湾局環境対策課、和白干潟を守る会、ウェットランドフォーラム、九州環境管理協会、10月よりNPO法人循環生活研究所、その他】2006年4月より毎月1回開催。

毎月第2木曜 16:30~18:30 東市民センター 出席者数毎月7名~12名 守る会出席者数4~7名 <つどいでのイベント>

・「五丁川塩浜護岸下の植栽」参加者19名内、守る会8名(3/15)

・アオサ摘み:(8/22)大人6名と子供(2名)守る会2名 アオサ16袋、(9/5)16名参加守る会3名、

(9/19)市民参加67名参加守る会5名 アオサ156袋、(10/3)12名参加守る会2名 アオサ48袋

その他 ・海の広場のトイレの合鍵を作る。(3/27)・海の広場倉庫の合鍵を作る。(4/11)

・海の広場入口鍵の修理を港湾局にお願いした(6/16)

(4) 塩浜護岸の「和白干潟の水鳥たち」のきりえ案内板が2か所設置される。(3/12)

(5) 塩浜護岸工事説明会10名参加。港湾局工務課2名、環境対策課2名、守る会6名(9/7)

(6) 和白干潟のアオサ回収のお願いの電話を博多港埠頭KKにし11/4からする返事をもらう(11/2)

(7) 和白干潟が「にほんの里100選」(朝日新聞社・森林文化協会共催)に選ばれた(1/6)

(8) 福岡県「ふくおか地域づくり活動賞」に応募(1/28)・日本河川協会日本水大賞に応募(11/7)

8. 和白干潟通信・パンフレット類

1・4・7・10月に「和白干潟通信」を計4回(No.89~92、各4,700~5,100部)発行した。毎号B5判8ページで和白干潟に関する情報を発信している。配布先は、会員、マスコミ・行政関係、和白干潟周辺の家庭。各号につき2回の編集会議を開いて作成した(編集委員は約7名)。発送作業はみんなで行なった。手配りでは、和白・奈多・美和台・高見台・唐の原・香住丘・御島崎・香椎・照葉の家庭に配布した。7月ハマボウを見る会の案内チラシを香住ヶ丘の家庭に配布した。東区役所と東市民センターと「コミセンわじろ」「和白公民館」などに「クリーン作戦と自然観察」のお知らせポスターを毎月掲示してもらい、和白干潟通信も常時置いてもらっている。東区内の公民館、和白丘の亀の井ホテル、喫茶「ほっと」、藍の家、臨海リサイクルプラザ、パタゴニア福岡店、天神のギャラリー「風」などにも和白干潟のパンフレットや通信を置いてもらっている。

2009年11月に三井住友海上スマイルハートクラブ助成金を受けることが決まり、リーフレット「和白干潟自然案内」を1万枚増刷した。(2010年1月)

9. 和白干潟を守る会ホームページ <http://www14.ocn.ne.jp/~hamasigi/>

年間を通じ、会の行事予定や活動報告、和白干潟の生物などに関する情報を随時更新し、発信している。「最近の和白干潟」のページでは、生き物、植物、野鳥の写真や、観察会の様子など充実に努めている。2009年11月より担当者が片岡から平山に移行中。

10. その他の広報活動

(1) にほんの里100選選定記念企画「ぐるっと歩こう」

2009年1月に、和白干潟が「朝日新聞社」と「森林文化協会」により、「景観」「生物多様性」「人の営み」を基準に、人々の暮らしによって育まれたすこやかで美しい里として、2000箇所以上の候補地の中から「にほんの里100選」に選ばれ、(福岡県では星野村と和白干潟の2か所、干潟としては全国唯一の選定地)この選定を記念した「ぐるっと歩こう和白干潟」を開催した。守る会やつどいのスタッフを含め83人の参加者全員元気に歩き通し和白干潟のすばらしさを実感した。

日時:5月9日(土) ルート:和白干潟(東区雁の巣 奈多 和白 唐の原)

案内講師:野村郁子氏(福岡植物友の会副会長)、藤井暁彦氏(九州環境管理協会)

主催:和白干潟を守る会 共催:和白干潟保全のつどい 後援:森林文化協会・朝日新聞社・西日本新聞社・毎日新聞社

(2) 20年誌発行

活動20年を記念し、1988年から2008までの活動をまとめ、和白干潟を守る会20年のあゆみ「未来につなごう和白干潟」を7月13日に発行した。ページ数20ページ1000部発行した。カンパ1口500円として通信発送に同封した。毎月の定例会議に1項目ずつ読み、活動を振り返っている。製作は2008年の10月から2009年6月まで14回の編集会議と9回校正を重ねて出来上がった。報告や写真、データと共に寄稿や座談会などの協力があって、良いパンフレットになった。20年誌の記事が朝日新聞(7月)、読売新聞(8月)、西日本新聞(9月)に掲載された。

(3) イオン「幸せの黄色いレシートキャンペーン」に参加

「幸せの黄色いレシートキャンペーン」に参加して2年目。イオングループが全国的に実施しているキャンペーンで、環境や福祉などのボランティア団体を支援するため毎月11日に買い物したときの黄色いレシートを団体のボックスに投ずると、その1%相当額の商品がイオンから団体に寄贈されるという仕組み。イオン香椎浜店内の「ジャスコ」(1階・食料品売り場、2階・衣料品売り場)と和白の「ホームワイド」のレシートが有効。期間は毎年3月11日から翌年2月11日。

「和白干潟を守る会」は2008年3月から登録された。2009年1月から12月までの12回のキャンペーンに各回2~5人延べ44人が参加し呼び掛けた。3月に08年度分の買い物をし、09年の申込書を提出した。4月よりイオンキャンペーン用たすき6本作成し呼びかけ時に使った。毎月呼びかけでボックスにたくさんレシートが入る。そのつど通信とリーフレットを渡している。

(4) 講演等

- ・「21世紀子ども放課後環境教育プロジェクト」(環境省事業)で環境カウンセラーとして和白干潟の話もする(山本)【香椎東小学校1/20(低学年39人と大人6名)、若久小学校2/10(低学年32名と大人8名)、早良区百道小学校2/24(低学年32名と大人7名)】
- ・和白中学校社会人講話「和白干潟ときりえ」講師(山本)中学生28名と先生と保護者(11/1)
- ・山口県立きらら浜自然観察センターできりえ教室(山本)105名参加(2/15)
- ・「葦の会」20名との交流会で和白干潟の講演(2/15)(山本)
- ・雨水ネットワーク会議全国大会 in 福岡、分科会の海の部にて(約20名参加)和白干潟を守る会の活動の報告(8/7)(報告:山本、司会:案納)

- (5) 情報の発信...新聞や雑誌、他団体の会報等に会の活動予定や鳥情報、和白干潟の紹介を発信
- ・「ボート倶楽部」2月号「海を守る人々」連載100回記念特集に和白干潟が掲載される。(1/1)
 - ・「西鉄電車コンパス」70号に「気ままにぶらり 和白干潟」記事が紹介された(4/30)
 - ・(財)日本自然保護協会(NACS-J)に年間スケジュール表を送り、「自然保護」誌に「和白干潟のクリーン作戦と自然観察」「和白干潟の自然観察ガイド講習会」「和白干潟まつり」「ぐるっと歩こう和白干潟」の掲載をお願いする(3/5)
 - ・JEAN/クリーンアップ全国事務局「海のポータル」サイトへの情報送信(6/2)
 - ・JAWAN通信93号に「未来へつなごう! 和白干潟」の原稿が掲載された。(6/2)
 - ・西日本新聞「エコスイッチ九州」の「えころじん」に掲載(6/10)
 - ・くすだひろこきりえ展「和白干潟の風」山口県立きらら浜自然観察公園ビジターセンターにて(2/7~3/1)
 - ・くすだひろこきりえ展「和白干潟の詩」レストラン「花もも」にて(6/1~30)
- (6) 取材協力...新聞社、テレビ局、ラジオ局、雑誌などからの取材に協力
- ・にほんの里100選選定について朝日新聞福岡の取材(1/21)朝日新聞全国版の取材(1/28)
 - ・津屋崎干潟に飛来したコウノトリの件で西日本新聞記者の取材(山本)(4/13夕刊に掲載)
 - ・国づくり人づくり財団の2名が訪問(5/14)
 - ・朝日新聞記者のくすだひろこきりえ展の取材(6/3)(山本)6/10に掲載
 - ・中央水産研究所2名の守る会のアオサ回収についての聞きとり(9/7)8名出席、電話取材(10/7)
 - ・中学理科教科書作成の為に取材に平山静男氏(九州女子短大講師)が来訪(10/24)
 - ・和白干潟を通る「海の中道海浜公園線」について西日本新聞記者の電話取材(10/29)(山本)

11. 対外団体との交流活動、協力・参加活動

- (1) 和白海岸定例探鳥会
- 「野鳥の会福岡支部」に協力・参加。毎月第2日曜日、計12回。鳥類確認種最小23種(7月)~最大53種。(12月)11月より探鳥会用に鳥写真パネルを作成し説明に使う。
- (2) JAWAN・JEAN・ラムネット
- ・JAWAN通信93号の原稿「和白干潟レポート」、写真4点送付4/19
 - ・「干潟・湿地を守る日2009」参加の和白干潟クリーン作戦の報告書と写真を送る(4/28)
 - ・JAWAN運営委員承諾の連絡を代表の辻さんにする(5/25)(山本)
 - ・三浦・三戸「北川湿地」の埋立中止要望書への賛同者13名分を送る(7/25)
 - ・JAWAN2009年総会約30名参加、シンポジウム「諫早を考える」約100名参加守る会5名参加 諫早市「高城会館」(9/5)
 - ・JEANクリーンアップ全国事務局の活動継続支援への協力要請に応える(11/13)
 - ・ラムネットへの山本と山之内の入会申込書を送り(5/23)山本と山之内の入会金を振り込む(5/25)
- (3) グリーンコープ
- ・グリーンコープ生協5名の訪問(8/18)(山本)
 - ・グリーンコープ生協「遺伝子組み換えナタネ抜き取り隊」準備会2名参加(8/29)
 - ・「GMナタネ抜き取り隊」立ち上げ記念講演2名参加(10/14)
 - ・グリーンコープ主催「遺伝子組み換えナタネ抜き取り隊」5名参加(11/21)
- (4) ウエットランドフォーラム
- ・クロツラヘラサギパンフレット作成で松本悟さんが和白干潟の聞き取りに来る(1/17)(山本)
 - ・パンフレット「クロツラヘラサギと友達になろう」の和白干潟の分の校正(3/10)(山本)
 - ・「人工島のクロツラヘラサギ署名キャンペーン」のお願いについて返事を出す(8/7)(山本)
 - ・ウエットランドフォーラムイベントで来日の韓国の朴重録さん他2名来訪(11/14)(山本)
 - ・松本さんに生物多様性関連イベントに賛同のメールを出す(12/11)(山本)

(5) その他

- ・海の中道海浜公園鳥類調査に協力(毎月1回)(山下、山之内、田辺、平山)
- ・福岡空港の総合的な調査を考える集(シ - オーレ新宮)参加者約200名守る会5名参加(1/18)
- ・谷津干潟レンジャー(芝原、小山さん)ハチの干潟の探検隊の岡田和樹さん来訪(2/2)
- ・「三番瀬のラムサール条約」登録を実現する会」に、船橋海域部分を対象にラムサール条約への登録手続きを開始する要望に賛同する団体署名に書き込み送付(3/3)
- ・THE NORTH FACE ストア(福岡店団体会員加入)6名と海守の1名がきりえ館訪問(4/25)
- ・東京港野鳥公園レンジャーの桑原千尋さんきりえ館訪問(5/11)
- ・地球環境基金の環境 NGO・NPO 活動状況調査表に記入して送付(11/18)
- ・「にほんの里 100 選」を自転車で回っている藤本完さんがきりえ館訪問(6/4)
- ・「桧原桜賞」に和白干潟テーマの短歌3首で応募(12/2)(山本)

***** 「和白干潟を守る会」運営に関して *****

12. 定例会議・総会(毎月第4土曜日)

毎月原則として第4土曜日、守る会事務所で「定例会議」を12回開催。そのうち2月は「総会」として開催した。出席者は各回13~20名。平均15人出席。総会で活動方針を決めるほか、会の活動に関する重要な事項は定例会議で審議して決定した。

13. 販売・贈呈

観察会に来た学校・公民館等に和白干潟の写真集・ラムサールパンフを贈呈した。また、他団体の出版物なども委託販売したり、贈呈したりした。

- ・和白公民館オープン祝いにきりえ「夏の和白干潟」寄贈、5/18 和白公民館文化祭で展示公開(11/21.22)

14. 助成

- ・平成20年度エコ発する事業実績報告書提出(4月)
- ・パタゴニア環境助成金の申請(1月)助成金436,000円を受けた。(4月)
- ・三井住友海上スマイルハートクラブ助成金応募(10月)助成金10万円を受けた。(11月)

15. 寄付・寄贈

- ・イエローシートキャンペーンでイオンより19,115円分相当の物品の提供を受けた。(2月)
- ・後藤哲子さんから夏用スリッパ16足の寄付があった。(6月)
- ・長阿弥さん60歳記念の冊子「なかよし読本」寄贈(10月)
- ・重松秀雄さんより干潟まつり写真展示用吊金具、一輪車1台寄贈。
- ・重松秀雄さん、山之内芳晴さんより守る会倉庫資材一式を寄贈された。(11月12月)
- ・クリーン作戦時に差し入れ。(矢部)
- ・会員や一般市民から、会費納入、観察会、干潟まつり、望年会オークション等でカンパを受けた。

16. 2009年度の新規会員

個人8名(浅野和義、亀井浩次、黒木圭子、執行利博、武富朝男、原田進、古澤浩和、山内美登利)
団体4団体(財団法人 黒田奨学会、THE NORTH FACE ストア福岡店、NPO 法人藤前干潟を守る会、パタゴニア福岡ストア)

17. その他

- ・古い事務所の整理作業(平山)(4月5月)・パソコンプリンター修理(5月)・コピー機買い替え(12月)
- ・守る会封筒増刷(5月)・和白干潟通信バックナンバーの整理(平山)(10月)・各種パンフレットアドレス修正シール貼り(6月~11月)・20年誌修正シール貼り(7月~10月)・リフレット修正シール貼り(12月)
- ・駐車場草刈(8月)(重松秀)・「アオサ摘み」で壊れた一輪車の車輪の取替え(重松秀)(9月)
- ・アオサ清掃運搬用のソリを購入(山之内)(10月)・守る会駐車場の倉庫建設(重松秀、山之内)(12月)
- ・中野悠紀子さん交流会(2/3)・黒田長久氏ご逝去(2/28)・山下さんの奥様ご逝去通夜(4/11)
- ・望年会参加者12名(12/25)・大掃除参加者10名(12/26)